

平成 30 年度第 1 回 里庄町総合教育会議 議事録

- 1 日 時** 平成 30 年 8 月 22 日 (水) 〈開会 9 時 00 分、閉会 9 時 40 分〉
- 2 場 所** 里庄町役場本庁舎 2 階 第 2 会議室
- 3 出席者**
- | | |
|--------|----------------------|
| 町 長 | 加藤 泰久 |
| 教 育 長 | 杉本 秀樹 |
| 教育委員 | 宮崎 勇次 (教育長職務代理者) |
| | 定兼 正明 三吉 俊郎 堀 朝子 |
| オブザーバー | 小寺教育委員会事務局長 天野事務局長補佐 |
| 事 務 局 | 赤木総務課長 総務課主事安藤 |

4 議事にかかる出席者の発言

(1) 里庄町教育大綱について (議事進行：町長)

【町長】

里庄町教育大綱 (H27 年度から H31 年度まで) については、町の大きな教育行政の方針ということで、町長就任に伴う大きな変更はなく、従前の内容で十分対応できると思っ
ているが、1 点だけ、基本方針「生きる力を育む学校教育の推進」に私の考えを入れさせて
いただきたい。

ご承知の通り、社会は AI、ICT、IOT といった情報化が進み、子どもたちにおいても、
IT 技術はあくまで道具であることを理解したうえで活用し、自分たちの個性をしっかりと確
立しつつ、生きる力を身につけていかなければならないと考えている。

このようなことから、次のように基本方針を変更したい。

『「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成を重要な柱ととらえ、生きる力を育
む教育の創造に努めます。子どもは町民みんなで育てるものという意識を学校・家庭・地
域など社会全体で共有し、互いの連携・協力を図り、人工知能 (AI) 等の先端技術も有効
活用しながら、子どもが健全に育つ環境づくりを進めます。』

今後は学校教育でもプログラミング教育が入ってくる。国が方針として、子どもの論理
的思考を養う必要がある、と示していることから、町でもしっかりと対応していきたい。

只今説明したことについてご意見をいただきたい。

【三吉委員】

AI とは、例えばプログラミング教育とおっしゃったが、他にはどんなものをイメージし
ているか。

【町長】

AI 等の有効活用ということで、AI (人工知能) は、例えば莫大なデータベースをどのよ
うに扱い、予測や活用をするかという部分。AI により無くなる職業もある中で、創造的な

思考ができる子どもたちを育てていく必要がある。AIが多数ある社会の中で、子どもたちはしっかりと足を地につけて、生きる力を育ててほしい。

ICTはコミュニケーションの部分。SNSなど、インターネット上で人と人が繋がるツールをこれからは活用する必要があるので、コミュニケーションの仕方や正しい使い方を学ばなければならない。当然、学校教育等に入って行くのでしっかりと支援していきたい。

IOTは物の部分。あらゆる道具や機器がインターネットに接続していく時代である。利便性の高さも踏まえ、正しく活用できるよう、触れる機会を作っていきたい。

【定兼委員】

大綱にあることを行うに当たり、厳しい家庭環境の子どもは学習機会に恵まれないことも多い。そういった子どもたちが、学習機会を得るに至るまでをなんとかしたい。例えば、一人親家庭であれば、養育費の問題等の経済的なサポートを受けられるようにアドバイスをしていかないと、中々改善されず、里庄町全体のレベルも上がっていかないのでは。

また、先端技術の進歩もあり、里庄町は特に理系に力を入れているが、それ以外にも、音楽や芸術的な絵・文字等の分野にも、子どもたちの伸ばせる芽があるのではないか。

そういったところにも目を向けていただきたい。

【町長】

まず、子供の貧困ではないが、経済的に苦しい家庭が潜在的にあるが、見えてきていないというところがある。そこにどういう形で光を当て、施策によるサポートをしていけるかと悩んでいる。少し話が違うかもしれないが、子ども食堂のようなものを里庄町でもできるのか考え、他市町村の実態も聞いた。具体案はまだないが、貧困の子どもだけでなく、地域の人が気軽に寄れて、そういった子どもも地域社会の中でしっかりと育てていける環境が望ましいと思うところもあり、その中で派生的に、学習や日常生活のことも支援していける体制が作っていけたらいい、というようなことは考えている。

私も、子どもたちは、音楽や芸術にしっかりと触れてほしいと願っている。例えば、文化ホール事業にしても、子どもたちにしっかりと活用してもらえるように考えていきたいと思っているので、そういった意見も頂戴しながら協力をお願いしたい。

【堀委員】

最先端の技術を有効活用しながらというのは、子供たちには必要かなと思う。併せて、先端技術で世に出たときについていける力の他に、他人と関係を作っていく力、判断する力は必要だと思う。

【町長】

人間は一人では生きていけないので、どういう風に人間関係を作っていくかということが、幼いころから本当に大切だと思う。今、学校でどのような人間関係を作っていて、それを教育としてどのように進めているか私にはわからないが、そのあたり教育長の意見はどうか。

【教育長】

不登校の子が2～3年前から増えた。言い合いのレベルだが、子どもたちの間でのトラ

ブルも多々ある。このことを受け、去年から、体系的に取り組み、「明るい学校づくりの推進」を小中学校で連携してまとめているところである。

具体的には、中学校卒業までを見越したときに、小学校卒業時点でここまでの力を身に着ける、といった一連の流れを作り、幼稚園や保育園も巻き込んで11年間を通して作る構想。人間関係作りで、明るい学校にしていくために、「人間関係が良い学校」と「分かる授業」をセットで取り組もうとしている。

【町長】

教育長には、学校を子どもにとって楽しいと思える場にしてください、といつも言っている。学校が居づらい場所だと、子どもは居場所がない。学校に行ったら楽しいとか、給食がおいしいとか、友達と遊べて楽しいとか、何か一つでも楽しいことができるような学校にしてくださいとお願いしている。

堀委員がおっしゃったように、コミュニケーションをとることは、人間として生きていくために本当に必要なことなので、これからもしっかりと育んでいきたい。

直接関係するか分からないが、社会福祉協議会で手話通訳士を募集している。今の構想では、来年4月に手話言語条例を制定しようと思っている。例えば、病院や行政窓口の際の通訳だけでなく、学校の教育現場でも手話講座をしてもらえるのではないかと考えている。一つの手段だが、手話が必要であるという特性を持った人や、障がいを持った人も普通に生きていける社会が当たり前だということを、幼い時から考えてもらえる子どもたちが育てばいいなと考えている。

要約すると、手話通訳士を社会福祉協議会に採用して、手話講座などを学校教育現場で取り入れることによって、子どもたちの障がい者に対して理解も深まるし、コミュニケーション能力も高まるのではないかとということ。

【堀委員】

非常に良いと思う。手話だけに限らず、点字等も表に出したほうが、障がいを持っている方は胸を張って生きれると思うし、みんなが自分でできることを言って周りに伝わるといことはとても大事だと思う。

【宮崎委員】

大綱基本方針の、生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の振興の部分で、指導者が高齢化する中で、子ども自身の自主的活動でリーダーをいかに育てるか。環境を一生懸命作っても、子どもがその環境に中々馴染まないこともある。文科省の方針では、部活は週1回休み、土日は1日休み、練習時間は2時間、休みの日には3時間、最長3時間までと制限を振ってきている。

根性論はもう通らないが、今後これがどうなっていくのか。弱い子を育てるのではという思いと、これでいいのではという思いがある。自己中心的な子どもも昔に比べて増えた。環境は大事だが、それについていく子ども自身の育成をしないと、いろいろなことで突き当たりが来るのではないか。

スポーツ・レクリエーションの分野では町長はどこまで考えているか。

【町長】

スポーツは努力や上下関係といった、体力以外にも精神的に鍛える部分が多いと思っている。特に中学校はその意味合いが大きいと思う。児童生徒数が限られた中で、やりたいことがあれば、しっかりとやってもらいたい。

また、学校の役割もあるが、家庭の、特に親の役割は非常に大きいと思う。去年、里庄町の野球部は中国大会まで進んだ。試合を見に行ったが、一人一人が非常に素晴らしい子どもだと思った。中学校の部活は、こういったものが大切かなと思っているが、すべてがそうではないとも思う。

【教育長】

子どもたちの家庭の実態もある。

【宮崎委員】

親の中にも、預けておけば何とかなるだろうという考えの人も居ると手がかかる。

【町長】

リーダーシップ、体力、自己中心的な子どもに対する課題の解決を図りながら取り組んでいく。教育長、具体的にどのようにしたら良いか。

【教育長】

優しさとともに、厳しさが絶対に必要。子どもたちが当たり前に行っていること、頑張っていることをしっかり認めてあげて、人間関係を作って、厳しく言わなければならないことは厳しく言う。

厳しさとは何かということ、教員も考えていけないといけぬ。単に叱るということではなく、優しい言い方でも、子どもにとってはものすごく厳しい一言にもなる。優しさと厳しさを兼ね備えて、子供たちを少しでも伸ばしてやる。

【町長】

学校の先生一人一人が、共通の認識をもって接していくのか。

【教育長】

当然。する人とならない人がいてはいけない。

【町長】

その方向性をもって、指導してもらえればと思う。

その他の意見はあるか。

【三吉委員】

大内町長の時にも話をさせてもらったが、矢掛町などでは矢掛高校の高校生が祭りで仕事をしたりして活躍している。大人がある程度枠を決めてしまうところもあるが、子どもたちは意外と、特に高校生や大学生にもなると、普段は目に見えないが、企画をしたり、自分から発信していく力がある。

例えば、里庄町でも高校生がボランティア等で活躍できる場を作れば、もっと子どもの

力を伸ばせるのではないか。文化祭や祭りなどで仕事をして、認められると、町外に出ても、また戻ってくるきっかけになる。そういった流れがあると、里庄はこんないいところだと発信してくれたり、また町に戻ってきたりということになって、例えば、矢掛町などでは、教員や保育士、町職員として帰ってきているということも聞いている。若者は遊んでいるわけではないが、活躍できる場がもっとあればと思う。

【町長】

矢掛高校の取り組みは非常にいいと思う。地域の問題、町の将来を考えられる力は高校生の年代になるとぐっとついてくる。自分たちが地域に対して何ができるのか、問題意識をもって少しでも役に立ちたいということで、そういった活動につながっているのだと思う。

里庄町で何かできることがあれば、取り組んでいきたい。委員会でもどのようなことができるか考えてもらえればと思うし、町としても、地域全体の街づくりに関係してくるので考えていきたい。我々はなかなか高校生と触れ合う機会がないので、委員会の先生にも声をかけてもらったりしてもらえればと思う。今年はできていないが、冒険キャンプでは、先生が高校生を呼んで手伝いをしてもらい、小学生にはより年の近い身近な存在となっていて、こういったお兄さん・お姉さんになりたいと思えるようなこともあった。いろいろな機会を通じて取り組んでいきたいと思う。

【町長】

最後に、教育大綱については、冒頭のとおり変更して良いか。

→反対意見無し。

本日の議事を終了する。